

■第7回（昨年12月24日）会議では、こんな話をしました

「市民協働アンケート」の分析結果を各メンバーが発表し、今後の具体的な施策提案にむけて意見を出し合いました。出た意見を、ほんの少し紹介します。

- ▽市民が活動を始めたきっかけを探ることが、市民のニーズを知ることにつながる。
- ▽市民活動と行政の事務事業は、地域課題の共通点があっても、直接的にマッチングさせることは難しい部分がある。
- ▽多くの市民活動団体は財源の確保を難しく感じており、行政に財政支援と場所提供を求めている。
- ▽協働には、事務事業の無駄をなくす「行財政改革」の視点と、市民の主体的なまちづくりを勧める「地域活性化」の視点があり、どちらも必要である。

■第8回（1月26日）・第9回（2月16日）会議では…

第8回会議は「市民と市職員の合同勉強会」に参加し、なぜ今、協働のまちづくりが必要なのかについて、市民とともに学びました。

第9回会議では、これまでのワーキングで調査・研究したことをもとに考えた「協働を推進するための具体的な施策」を、各メンバーが発表しました。

ワーキングメンバーのつぶやき vol.④

つぶやき人：西村朋子（高齢介護課）

このワーキングに入って協働の色々な形式を知るにつれて、実際は身近な所に協働ってあるんだなと感じました。

私自身はほとんど関わっていたことはないのですが、大学の先輩が京都学生祭典のスタッフとして活動していました。いま考えると「学生のまち 京都」の魅力を広く伝えたいと学生自身が企画し、市や多くの企業の協力を受けたこの祭典の活動は、市民協働の一つだったのだなあと思います。

その先輩が、とても楽しみながら取り組んでいたことを考えると、協働ってホントは堅く意気込むものではなく、気軽に知らずに関わっているものなのかも知れないなと感じます。私も、今後は楽しみの中で協働を見つけ、積極的にかかわっていきたいです。



協働ワーキングの活動は、今年度で終わるの？



長にゃん

市民参画協働政策研究会（協働ワーキング）の今年度の活動は、3月に報告書をまとめ、ひとまず終了です。来年度は、市民との協働に関するマニュアルを作成予定です。これは、事業を計画・実施する際、協働の視点を取り入れるための手順などをわかりやすく示すものを考えています。

「市民とまちづくりを」をモットーに、来年度も活動を続けていきますので、よろしくお願いします。

*市民参画協働ニュースは来年度も引き続き発行予定です。

*協働に対する疑問・提案・思いなどは、お気軽に下記までお寄せください。

メールアドレス：shiminsankaku@city.nagaokakyo.kyoto.jp